

淀江台場関係年表

嘉永6年(1853)

- ・ペリーが浦賀(神奈川県横須賀市)に来航し、江戸幕府に開国をせまる。

安政2年(1855)

- ・松南宏年(徹翁)により農兵隊が組織される。

安政4年(1857)

- ・六尾村(北栄町)に大砲を鑄造するための反射炉が造られる。
- ・今津から淀江までの沿岸防備担当に池田周防、松南宏年(徹翁)が任命される。

文久2年(1862)

- ・松南宏年(徹翁)が所有する田畑を砲台築造の敷地として無償提供する。

文久3年(1863)

- ・淀江台場が完成する。
- ・美保関付近に異国船が出没、農兵隊が召集され、淀江台場で戦闘準備が行われる。

慶応3年(1867)

- ・大政奉還・王政復古

慶応4年(1868)

- ・9月8日より「明治」に改元。
- ・松南農兵隊、政府軍として戊辰戦争に参戦。

明治31年(1898)以降

- ・養良高等小学校の建設工事等による土塁の一部掘削。

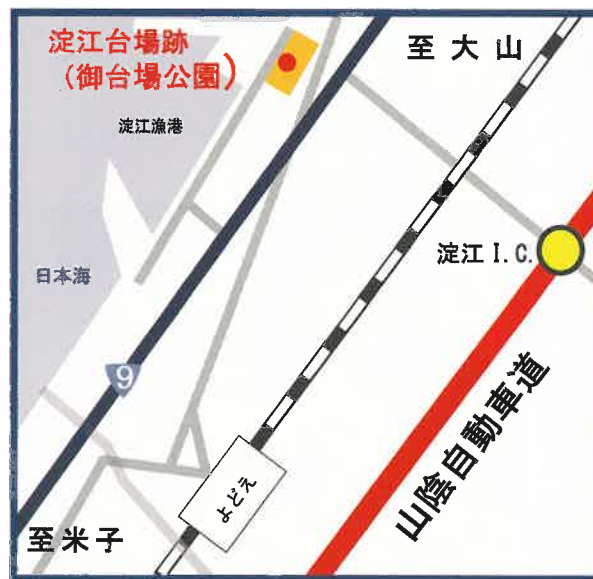
昭和45年(1970)

- ・養良高等小学校、県立西部農業高等学校となって移転。その後、跡地は「御台場公園」として整備される。

昭和63年(1988)

- ・「鳥取藩台場跡淀江台場跡」として国史跡に指定。

交通アクセス



○JRで…淀江駅から徒歩15分

○お車で…山陰道淀江I.C.から3分

御台場公園駐車場をご利用ください。

国指定史跡 鳥取藩台場跡淀江台場跡

指定年月日：昭和63年(1988)7月27日

所在地：鳥取県米子市淀江町今津267-1

指定面積：2,619㎡

【発行】米子市教育委員会

〒683-0067 鳥取県米子市東町161-2

TEL 0859-23-5437 FAX 0859-23-5414

Email bunka@city.yonago.lg.jp

※当資料は「平成28年度地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用して製作しています。

国指定史跡 鳥取県米子市

鳥取藩台場跡 淀江台場跡

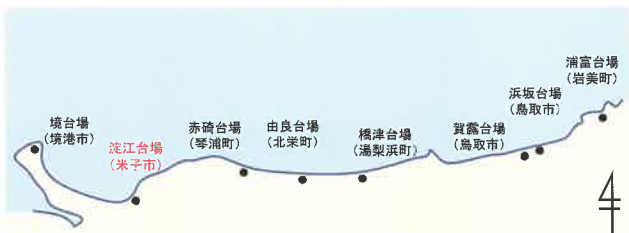


米子市教育委員会

鳥取藩台場跡淀江台場跡 ~ 地元農兵隊が守備した幕末の砲台跡 ~

ほうだいあと

「御台場」は、江戸時代の終り頃に、外国船の来襲に備えて全国各地に作られた砲台の跡です。鳥取県内では岩美町の浦富、鳥取市の浜坂、賀露、湯梨浜町の橋津、北栄町の由良、琴浦町の赤碓、境港市の境、そして米子市淀江町の8か所に築されました。



淀江町今津にある淀江台場跡は、文久3年(1863)に築かれたもので、現在は、長さ約65m、高さ約5mの土塁が残っています。昔の絵図を見ると、現在の土塁の両端がさらに翼のように延びていたことがわかります。現存する部分は、海に面する側の基部であり、もとの高さは、現在の3倍くらいはあったといわれています。台場の



全面を覆っている赤土は、大山町の晩田山から運ばれたと伝えられています。

当時、この台場には国産の大砲3門が備えられていました。



鳥取藩は、御台場の警備を、因幡地方については藩士に、伯耆地方については郷土や大庄屋に分担させました。

淀江台場跡に関しては、松南宏年(徹翁)が所有の田畑を砲台の敷地として無償提供し、砲台の築造は、長崎で蘭学や築城法を学んで帰郷した松南宏年(徹翁)の長男宏元(ひろもと)の設計によるものでした。淀江台場跡の特徴は、土地を提供した人、設計した人、守備する兵隊などすべてが、松南宏年(徹翁)をはじめとする地元の人たちだったということです。こののち松南宏年(徹翁)は、第2次長州征伐、戊辰戦争等で活躍しました。

明治31年(1898)以降、養良高等小学校(旧淀江産業技術高校の前身)の建設に伴って、土塁の一部が削られました。その後、学校は何度かの変遷を経て、昭和45年(1970)に県立西部農業高等学校となって淀江町福岡へ移転し、跡地は「御台場公園」として整備され、現在に至っています。

松南農兵隊遺品(市指定有形文化財)

松南家は今の米子市淀江町今津にあり、汗入郡の大庄屋役をつとめた豪農でした。幕末、鳥取藩の領海内でも外国船が見受けられるようになり、松南宏年(徹翁)



は海岸防備のために私費を投じて、近辺の農民を組織化し農兵隊を結成しました。農兵隊は淀江台場の築造と守備に大きな役割を果たし、軍事面においても藩で大きな存在となりました。戊辰戦争



の際も政府軍として、秋田方面に出兵しています。明治4年(1871)、政府の指令により農兵隊は解体されました。

現在、農兵隊の関係品として、胴よろいと陣太鼓が残されています。